

平成 17 年度調査・研究事業

妙高山麓地域振興計画策定調査<<新潟県>>

【概要】

妙高市は、長野県と接する新潟県南西部の地域で、平成 17 年 4 月に旧新井市、妙高高原町、妙高村の 3 市町村が合併し新市となった。同市は観光産業を中心とした地域であるが、今後のまちづくりについては、一昨年度、旧新井市が策定した基本構想「妙高四季彩物語～自然と人が織りなすスローライフなまちづくり」を基本方針として推進することとしている。

この構想は、この地域を一つの生命地域(バイオリージョン)として捉え、自然環境と調和した観光戦略や産業振興を目指すものであり、本事業では昨年度、地域資源と観光需要の調査を行い、地域振興の基本方針を定め、ゾーニングや回廊の設定等の地域振興策ならびに実現化方策の方向性について整理した。今年度は、文化面も加えスローライフなまちづくり指針をとりまとめるとともに、地域振興策の実施に向けた具体的方策の検討を行った。

【対象市町村、モデル地域等】

新潟県妙高市

【調査年度】

平成 17 年度

【提案・要請者】

新潟県妙高市

【提言内容・その後の活動等】

スローライフ型まちづくり基本方針及び地域振興のためのまちづくりビジョンを策定、市に対して提言し、妙高市の基本計画にも反映された。また、地元の委員を中心として具体的施策の検討・実施を目的とする協議会が作られ、「温泉と食による健康づくりサービス(民間事業)」「観光連携ルートの整備(公共事業)」「地域の自然や農業資源を活用したサービス・楽しさの充実(民間事業)」「観光の活性化等を推進する組織機構(官民の連携)」の4つの戦略を策定した。

また、実現すべき地域振興策として、

- ①健康をキーワードにした施策パッケージ
- ②妙高まるごとパスポート日帰り実験
- ③斑尾地区での各種取り組みの実施
- ④(仮称)妙高山麓地域振興機構の組織化

の4つを提案し、一部試行された。

さらに、施策推進組織として、(仮称)妙高山麓地域推進機構を立ち上げ、観光分野だけに留まらず、総合的な地域振興に関する案件を種々の地域振興団体とともに実施することを提案した。

【成果品】

報告書

【調査体制】

委員会

【委員長・座長】

千賀 裕太郎 東京農工大学大学院共生科学技術研究教授

【事務局】(IVICT は除く)

山崎 一 妙高市企画政策課主査

【調査協力機関】

株式会社アルメック

【視察先・ヒアリング先など】

群馬県草津町、中之条町

【委員等】(分科会等は除く)

禰沢 幹夫 南部活性化連絡協議会会長
高橋 直人 (株)ネイチャーライフ代表取締役
村越 洋一 なんぶルネサンス代表
村田 耕蔵 自然学校ねぎぼうず代表取締役
遠間 和広 遠間旅館経営温泉ソムリエ
丸山 和彦 豊葦斑尾村おこしの会代表
霜鳥 敏 妙高市観光協会理事(宣伝担当)
宮川 久 頸南森林組合顧問一級建築士
小林 清 (株)JTBツアーズ高田支店営業総括課長
鈴木 敏明 東日本旅客鉄道(株)新井駅長
金子 直子 妙高市健康福祉課主査保健師
若月 道秀 新潟県上越地域振興局企画振興部長
恩田 義男 妙高市農林課長
引場 弘行 妙高市観光交流課長
今井 徹 妙高市企画政策課長

【区分】

電源地域振興指導事業